

委員会レポート

予算特別委員会

委員長：豊坂 敏文
副委員長：鶴瀬 和博
委員：全議員
(議長・オブザーバー)

定例会付託議案

平成23年度一般会計補正予算(第9号)及び平成24年度一般会計予算の審査を行い可決した。

〈委員会所見〉

- ①第2種嘱託職員の日額報酬と、臨時職員の日額賃金の額の逆転を解消するため、早急な改正を。
- ②市単独事業を含め、新規事業等の周知の在り方を、市民目線に立って詳細に分かりやすくすべき。
- ③民間建築物吹付アスベスト改修支援事業は、環境問



- 題改善強化策の一環として、行政の指導力で早急に取り組みを。
- ④OA機器レンタル契約の透明化を図るべき。
 - ⑤中学校廃校跡地の活用策と管理費用の明確化を早急に。
 - ⑥原の辻ガイダンスの活用策を検討すべき。

厚生常任委員会

委員長：町田 正一
副委員長：市山 和幸
委員：鶴瀬 和博、豊坂 敏文
音嶋 正吾、久保田恒憲

定例会付託議案

本委員会に付託された、国保・介護予算、病院事業予算、その他焼却場関連条例、し尿処理場関連条例、特養及び老人ホーム、直営診療所の予算について、すべて原案可決とした。

①介護保険事業

年間29億7千万円の介護保険事業は、3年に一度事業計画が見直され、本年が第5期目の計画策定となる。この事業計画の見直しに伴い、介護保険料を3千800円から4千970円と大幅アップせざるを得ない。高齢化に伴うこの3年間

合併時に

で基金残が1千400万円程度と落ち込む一方で、特養ホームの申し込み待機者は60名、老人ホームは150名など、介護サービスのニーズは年々増加している。第5期事業計画での負担増はやむを得ない。

②国民健康保険事業

平成24年度所得確定後、国保税についても標準世帯において年額3万円以上の負担増をお願いせざるを得ない。

〈委員会所見〉

もはや吉岐市のような離島で、少子高齢化が進み所得も低下傾向にある自治体では「介護保険制度」「国民健康保険制度」の維持すら困難になっている。広域化や国県の補助率増など、抜本的な改革を求めざるを得ないが、我々市民も特定健診等の受診を心がけ、ぜひ「元気に老いる」を心がけていく事が肝要である。

6億円以上あった基金残が4千万円となり危機的状况の中、平成24年度は一般会計から2億円程度の予算繰入れとなった。



健診を受けて安心生活「健康的な毎日を送りましょう」



渡良浦のフェリーみしま発着所

定例会付託議案
議案20件を審査し、全議案可決した。

総務文教常任委員会
委員長：今西 菊乃
副委員長：久間 進
委員：中田 恭一、榊原 伸好
小丸丸益明、呼子 好

〈委員会所見〉

① 老岐市嘱託職員の給与、勤務時間その他の勤務条件に関する条例の一部改正について
第2種嘱託職員の「産前産後休暇（無給）」を追加することにより、今までは出来なかった社会保険等で産休や育児休暇の手続きができる。また、特に保育士・看護師・介護士等については雇用条件を見直す必要がある。

廃校のグラウンドと体育館は、教育委員会の管理であり管理費もかなりかかってくる。地元の利用回数が少ない所は廃止すべき。施設へのいたずら等も増えて来るので、跡地利用について検討し早めに結論を出すべき。

消防団の定員は団員の確保が難しいので減員となっている。団員一人当たりの人口は30人としている。人口に対する団員の割合は充足しているが、1千20人の定数に対し35名の不足である。加入促進への意識向上に努めるべき。

④ 三島航路待合所の位置を変更する条例について
渡良浦の待合所は仮設ではあるが当分は使用できる。対応年数を考慮し本施設の計画はすべき。

産業建設常任委員会
委員長：田原 輝男
副委員長：大久保洪昭
委員：牧永 護、瀬戸口和幸
中村出征雄（欠席）
深見 義輝、町田 光浩

〈委員会所見〉

議案15件の付託を受け、審査の結果、委員会の意見を付して全議案可決した。

① 老岐市死亡獣畜取扱場条例の一部改正は、指定管理者に施設の管理等を行わせることができる改正。
② あらたに生じた土地の確認及び字の区域の変更は、芦辺町箱崎諸津触字破戸ノ元地先の諸津漁港後諸津地区の公有水面埋め立てにより生じた土地の字の区域の変更。
③ 八幡浦地区特定漁港整



市営住宅 桜木団地（芦辺町瀬戸浦）

備工事請負契約の変更は、外防波堤の地盤改良作業中の特殊作業船が風浪により破損し、作業船の復旧が直ちに出来ず施工済の部分までを出来高として契約変更するもの。
今の状況では加入率の向上は期待できないことから、早期に未加入の実態調査・分析を行い、抜本的な対策を行うことで、経営健全化を図りたい。
※現地視察 桜木団地公営住宅（新築）